FUJ!FILM

印刷業界の「未来」へとつづく「今」を見つける

Magazine



エム・ビー・エス株式会社

Contents ■

グリーン・レポート SDGs で見えてくる企業の未来

ノーカーボン紙印刷のコスト削減・品質向上事例 油性薄盛り減感の「FN-LP300」で品質が安定。 コストも無駄も大幅削減。「盛り過ぎチェックペン」 との相乗効果で、技術力アップの強い戦力に。

♥グリーン・レポート

DGSで見えてくる 業の未来

球規模の課題を2030年に向けて解決していくため 貧困や人・国の不平等をなくす、気候や環境の変動に ble Development Goals /持続可能な開発目標)。これ に、2015年に国連が定めた行動指標です。 対策を講じる、平和と公正をすべての人に、など、地 は、健康、教育、ジェンダー平等、海や陸の豊かさを守る、 世界的に注目度が高まっているSDGs (Sustaina

た。

その他、

つくる責任、つかう責任から、プラごみ

低い状態です。 「まったく知らない」という回答が約8%で、認知度は につなげたことで注目されている企業のひとつが株式 か」が重要な条件になる時代が間もなく訪れると考え 企業間の取引でも「SDGsに取り組んでいるかどぅ られています。 小企業を対象に行った2018年の調査によると そのSDGsを企業活動の根幹に据え、事業の拡大 SDGsについて、 しかし、取り組みは国レベルで進み、 関東経済産業局が500社の中

会社大川印刷です。

SUSTAINABLE GALS DEVELOPMENT

























S D

事業を拡大した横浜の老舗

株式会社大川印刷 GSを経営方針に組み込み -0















以下同) ジネスが始まっているのを実感しています」(大川さん、 はなく、相手から問い合わせが来るかたちで新しいビ

川印刷の社員と高校生が語り合う場として実現しまし し、計画を作成しています。たとえば2018年に発 ワークショップを開催。いくつかのチームに分け、SD 表された、若者の働きがいのある職場について考える Gsのゴールをもとに自分たちのやりたいことを提案 「若者カフェ」は、 大川印刷では、毎年社内でSDGs経営計画策定 横浜の高校のイベントに出展し、

ことで、 働いていた留学生の困りごとから生まれました。日本 普及プロジェクト」は、大川印刷でインターンとして SDGSのゴールをもとに、 指した「ゼロ・エミッション2020プロジェクト」など、 たり、災害時に不利益を被ったりしないようにという 任住の外国人が言葉の壁で医療機関を受診できなかっ また、2015年から始めた「多言語おくすり手帳 人や国の不平等をなくすことを目指していま 取り組みが進められてい

役立ちます。事業の再定義や思考回路を変えることが 「多くの気づきや、新たな視点を得る上で、SDGsは できると思っています」

できることから始めよう

まないノンVOCインキ、FSC森林認証紙などのエ ガスの削減に貢献できることになり、 事業を展開。顧客は、大川印刷に発注すれば温室効果 業を通じて社会課題解決を実践する「ソーシャルプリ 実現した印刷会社です。2004年には、自社を、本 ピールポイントにもなっています。 コ用紙を積極的に採用するなど、環境を意識した印刷 ンティングカンパニー」と位置づけ、石油系溶剤を含 **大川印刷は、日本で初めてゼロカーボンプリントを** 同社の大きなア

が増えています。こちらから新規開拓を仕掛けるので ということで、当社に仕事を発注してくださるお客様 「SDGsをしっかり理解している会社に依頼したい

C0∞の削減を進め、働きやすい工場づくりなども目

まず、身近な課題を解決する と同社代表取締役社長の大川哲郎さんはいいます

結び付けていく。それは大川印刷の大きな力になって

の課題解決の大切さを一人ひとりが認識し、事業にも

考えることで、SDGsを自分ごととしてとらえ、社会

このように従業員の意見を尊重し、それを全社的に

るでしょう。

SDGsのゴールに向けた取り組み

SDGsのゴールをもとに、自社の業態を顧みて、

多業種で広がる、

のは、できることから始めること。SDGsのゴールへ

大川さんは従業員の方にこう話しています。大切な

をなくす。この二つを頭におきましょう」

「自分さえよければいい、をなくす。自分には関係ない、

は、身近な課題を解決していくことから近づいていけ

ばいいかを考え、活動を起こす企業も登場してきまし クトをクラウドファウンディングで成功させたり、自 関に提供してものづくり支援を行うなど、生活や教育 どのゴールに向けてどのようなことに取り組んでいけ 社で使用する革素材の端材を国内のデザイン系教育機 が通っていない集落に水力発電機を設置するプロジェ たとえば、あるジュエリーメーカーは、海外の電気

るフェアトレードで原料を調達しています メーカーの例では、貧困や飢餓をなくすというゴール を念頭に置き、開発途上国の生活改善と自立につなが 優れた品質のタオルをラインアップに持つ繊維品

の質の向上を目指しています

を見せています。もちろん、印刷業界でもSDGsに る金属プレス加工会社、子育て中の女性に働きやすい 取り組む企業は増えてきています タクシー会社など、SDGsに関する取り組みは広がり 環境を整え、女性目線のサービスで営業成績をあげた 中小企業でも、障がい者や外国人を積極的に雇用す

多言語おくすり手帳 普及プロジェクト

大川印刷の取り組みの一例



日、英、中、韓の4か国語を併記した「わたしのお くすり手帳」。市民団体の協力を得て作成。5年 目に入り、問い合わせが増えてきている。

株式会社大川印刷

https://www.ohkawa-inc.co.ip/ 2018年に外務省主催の「第2回ジャパンSDGsアワード・SDGsパートナー シップ賞」を受賞するなど、SDGsへの取り組みが評価されている。

的な問題点や ように、SDGsの導入は難しくない。身の回りの 決に貢献する、という発想で業務を見直せば、潜在 SDGsはボランティアではなく、 大川印刷では従業員の皆さんが毎年実行している 結している。日常の業務を通して社会的な課題解 本業そのものと トも浮かび上



「会社の活動を通じてひとつでも多くの幸せを創造 したい」と語る大川印刷代表取締役社長・大川 哲

印刷関連分野企業に見られる SDGsへの取り組み

| 印刷業 D社 (東京都) | セキュリティを強化したIoTで情報を 守り安心な社会をつくる、多様な人々 の社会参加を支援するなど |
|-----------------|---|
| 印刷業 T社 (新潟県) | 地域経済の活性化、Uターン・Iターン 促進など |
| 印刷業 K社 | 太陽光エネルギーの活用、紙のリサイ |

(京都府) クルなど 印刷業 G社 紙やプラスチックに代わる素材での

(富山県) 印刷など 製紙業 K社 FSC森林認証紙の販促、ワークライ

フバランスの追求など

インキ製造業 T社 バイオマス資源による低炭素インキ (東京都) 開発など

(東京都)

マイナス できるからです。 **照らし合わせることで、環境、** 今後さらに、SDGs また、SDGsに取り組む利点のもうひとつの 事業活動を洗い出し、 自社の見えない課題に気づくことが挙げられま をプラスへ転換していける可能性 通じる事業に取り 課題を解決することで、 から事業活動 世界的: 改めてSDGsのゴ な流れとなっていけ 、教育、 組む企業には、 働きがい、ジェ 自社の ールと

ノーカーボン紙印刷のコスト削減・品質向上事例

油性薄盛り減感の「FN-LP300」で品質が安定。 コストも無駄も大幅削減。「盛り過ぎチェックペン」 との相乗効果で、技術力アップの強い戦力に。

ビジネスフォームの印刷で豊富な実績を持つ明文舎印刷商事株式会社は、ノーカーボン紙の印刷時の減感には UVインキをメインに使っていました。同社が油性薄盛りタイプの「FN-LP300」を導入したのは2019年3月。 1年未満ですがインキの使用量削減を実感しています。同年10月から使い始めた減感インキ専用の「盛り過ぎ チェックペン」と共に、同社にどのような変化をもたらしたのか、お話をうかがいました。

インキ使用量は約半分に。水や紙の無駄も減り、 オペレーターの労力軽減にもつながっています

滋賀県長浜市に本社がある明文 舎印刷商事は、中部・近畿エリアだ けでなく、東京や九州の印刷会社と タイアップしてビジネスフォームの 印刷を手掛け、確かな技術でお客 様から高い評価を得ています。減 感インキは、UV約8割、油性約2割 の比率で使っていましたが、富士フ イルムの「FN-LP300」を導入した のはどのような理由なのでしょう



業務本部 本部長 八若 昌弘さん

か。業務本部長の八若 昌弘さんがお話しくださいました。 「全社的に単価の高いUVインキから油性インキへの切り替 えを検討しているタイミングで、減感インキに関して富士フイ ルムのFN-LP300の情報が入ってきたんです。薄盛りタイプ なので、従来使っていた油性インキに切り替える以上のコス ト削減につながると判断しました」

とはいえ慣れ親しんだ物や方法を変える際にはどうしても 不安がつきまといます。それでも導入に踏み切ったのは同社 の社風に関係がありました。

「当社は常に挑戦することをモットーにしています。必ずもの にすると思ってまずはやってみる。そして成果が出ました」

FN-LP300導入を進めた製造本部製造課長の堀永 洋行



製造本部 製造課 課長 堀永 洋行さん

さんは次のように振り返ります。 「新しいものに切り替えることに正 直不安はありました。失敗したら刷 り直しになるし、ロールの場合は1 本単位でだめになるので怖かった です。でも、使ってすぐに良さがわ かりました。インキも進化してい て、こんなにいいものがあるんだ! と思いました」

まだ期間が短く、インキ使用量

の正確なデータは出ていないとのことですが、堀永さんは、 「青発色でも、黒発色でも、UVインキや以前使っていた油性 インキに比べてすごく薄盛りで発色が止まります。使うイン キの量は半分位になったと思います」と手応えを感じていま す。以前は、特に黒発色の印刷物の場合、オペレーターは減 感効果を確実に出して発色を止めようとして、どうしても厚 めに盛りがちでした。

「盛り過ぎるとガイドロールにインキが付着して、引きずり汚 れが出てくるので掃除が何度も必要でした。FN-LP300に切 り替えてからは薄盛りでいけるので、インキが流れにくくなり 汚れも付着しません。印刷を始める前の調整段階のセット時 間も短くなって助かっています」(堀永さん)

インキの量が減れば、供給する水の量も減らせます。また、 盛り過ぎると水元ロールにインキがからむなどのトラブルも ありましたが、FN-LP300ではそのような問題は発生してい ません。琵琶湖に近いこともあり、湿し水にノンアルコールタ イプを使うなど、環境に配慮している同社にとって水はデリ ケートなテーマ。エコ的視点からもメリットを感じています。 「薄盛りで確実に減感効果が出せるので、紙の無駄もなくな りました。何より、安定した品質で印刷できるのが嬉しいです

インキ、水、紙、手間、そして品質。FN-LP300導入の効果 を印刷の現場では大いに実感しているようです。

盛り過ぎチェックペンで減感インキの盛り量が -目瞭然。印刷が安定し、技術カアップへ

明文舎印刷商事では、2019年10月より減感インキ専用の 「盛り過ぎチェックペン」も使い始めました。製造本部グルー プ長の二階堂 一也さんは、確実な指導ができるようになっ たといいます。

「今までは適切な量を、透け具合とか、手触りとか、感覚的 な言い回しでしか指導ができませんでしたが、チェックペン を使えば盛り過ぎた所は白くなるのでひと目でわかります。 指導する側もオペレーターも納得しています」

チェックペンで盛り量がわかるようになってオペレーター



の傾向も把握でき、それぞれに 合ったアドバイスを送れるように なったことも収穫です。

大きなビジネスチャンスが広がっていることでしょう。

「良くなったことは、ノーカーボ ン紙に字輪でバーコードを印刷す る際、発色汚れ防止のため減感イ ンキを使って印刷するのですが、こ のとき適正な盛り量が容易に確認 できることです。以前は、盛りが厚 いとバーコードがグレーになった り、ひどい時は消えてしまいまし



製造本部 印刷/ロール丁舎 グループ長 二階堂 一也さん

た。チェックペンを使えば適切な指導ができます。 FN-LP300で薄盛りできるようになった効果に加えて、さ らに印刷が安定しました。これは当社の技術力アップにつな がっていると思います」(二階堂さん)

A3など広範囲な減感印刷の盛りムラも、チェックペンを スーッとひと筋引くだけで一目瞭然。誰でも判断できます。 若いオペレーターは盛り量のチェックを職長に相談すること もあったそうですが、チェックペンで自己判断ができるよう になり、従業員の方のモチベーションアップにも結び付いて

常に業務改善を考え、さまざまなチャレンジを続ける明文 舎印刷商事。FN-LP300と盛り過ぎチェックペンは、成長す る同社の確かな戦力として、今後もビジネスフォームの印刷 現場を支えていくことでしょう。

「インキもチェックペンも、ほんまにやって良かったです」 と笑って話す八若本部長。その笑顔が何より今回の導入の成 果を物語っているようです。

明文舎印刷商事株式会社

本社:滋賀県長浜市森町字中久保386 代表取締役社長:中村彰男 http://meibun.com/

1949年(昭和24年)設立。各種ビジネスフォ・ ムの印刷に豊富な実績を持つほか、近年は接着 技術に注力し、付加価値のある提案を行い、難 易度の高い印刷物の制作も請け負っている。

